

平成24年度 第4回とよた森づくり委員会 議事要旨 (案)

開 催 日 時：平成25年3月22日（金） 午後1時30分～午後3時45分

開 催 場 所：豊田市森林会館

出 席 委 員：岡本 譲 清水 元久 板谷 明美 稲垣 久義

宇井 和男 小幡満理子 蔵治光一郎 澤田恵美子

鈴木 洸 鈴木 禎一 原田 茂男 山本 薫久

以上 1 2 名

オ ブ ザ ー バ ー：小栗産業部部長

石田豊田加茂農林水産事務所林務課長

洲崎矢作川研究所主査

事務局出席者：原田森林担当専門監

森林課 加藤課長、北岡主幹、青木副主幹、藤本副主幹、塩田係長、

深見主査、牛丸主査

(開会時間 午後1時30分)

開 会

議 事

(1) 第2次豊田市森づくり基本計画について

事 務 局 （資料 1、資料 2 に基づき説明。）

山 本 委 員 先日、森林学校事務局企画講座で根羽村に行って話を聞いてきたが、地域材を使うことは次世代に繋がることだ、という共通認識が得られた。そういう視点を大切にしてほしい。

岡 本 会 長 今まで2回議論してますし、これで承認ということによろしいですね。

(異議なし)

報告

(2) 平成25年度予算について

事務局（資料3に基づき説明）

鈴木洸委員 歳出の減額理由は。

事 務 局 今まで、基本計画の目標値に併せて予算要求し、余らせていた部分があったが、今年は実績からの積算となった。事業量を減らすわけではない。

山本委員 地産地建ハウスは、地場の工務店等を元気付けようという施策に感じる。こういう施策に期待したい。

鈴木 禎一 委員 公共建築物の木材利用交付金は、地域の集会所などは入るのか。

事務局 入ります。

清水委員 地産地建ハウスについて、木材生産の立場からも、工務店等との連携や木材の需要喚起の必要性は感じている。

清水委員 木造建築物を建てたら、固定資産税を減免してもらえとか、そういう施策はないのか。

事務局 検討したことあるが、担当部署からは非常に難しいと返答をいただいている。

小幡委員 木の家の良いところを知る機会を広げて欲しい。見学できる工夫をしていただきたい。

山本委員 ようやく、こういう施策が出てきてうれしい。本来、民間がやるべきことではあるが、行政が背中を押してくれるような、元気が出るようなしくみをお願いしたい。

蔵治委員 これまで他の市の同種の委員会に出席した経験があるが、そこでは、製材や木造住宅に対する補助などの観点をもっと深刻に議論されていた。なぜかといえば、木材が売れるかどうかは林業の業界にとって死活問題だからである。しかし、今まで豊田市では、構想・条例・計画を通じて、木材利用については、PR としては必要であるが、あくまで公益的機能の発揮のための間伐を最重要課題と位置付けてやってきたはずである。この基本を変更して、これからは木材利用といった方に重点を変えるのか、それとも基本は変えずに、あくまで PR の手段として木材利用を計画するのか、この機会にはっきりさせておきたい。

事務局 公益的機能の発揮のための間伐を推進することに変更はない。ただ、これからは木材利用の観点も取り入れていく、ということ。

清水委員 我々の立場からいくと、ただ切り捨てられるだけでなく、使ってもらいたい。

事務局 大切なのはバランスだと思う。

（２）モニタリング調査について

事務局 （資料４に基づき説明）

蔵治委員 モニタリングの目的からすると、下層植生の種数がどうかということだけでなく、大雨が降ったときに、斜面を流れ下る水（表面流）が減る効果があるのかどうかをモニタリングする必要があるのではないかと。測定するノウハウはある。東京大学生態水文学研究所で 2004 年からこの研究をやっており、成果が出つつある。放置人工林で、本数 50%の強度間伐をすると、地表を流れる水量が約 4 分の 1 になるというデータが取れた。この委員会で機会をいただければ紹介したい。この成果は東海テレビの取材を受け、4 月 4 日に放送予定。

（閉会 午後 3 時 30 分）